

さようならマイナスイメージ

にんげん図鑑 人権問題と向き合うために



長年に亘る熱い要望を受け制作された画期的ビデオ！
マイノリティをテーマ・題材に人間に寄り添う映像制作を続ける
田中幸夫監督のドキュメンタリー映画とビデオ作品を再構成。
部落、在日、ダウン症、ユニークフェイス、認知症、LGBT など、
あらゆる人権課題に対する向き合い方を、大人にも子どもにも
分かりやすく提示する。

「凍蝶図鑑」(東京・パリ・ニューヨーク・ドイツ・スイス・オランダ)

「徘徊 ママリン87歳の夏」(ゆふいん映画祭・高崎映画祭・北京・上海)

「女になる」(米国 REVRY 社より世界配信)

「Pak-Poe」(ヒロシマ映画祭・ソウル同朋映画祭・DVD 世界販売)

「部落の心を伝えたいシリーズ」「グローバルに生きるシリーズ」

「ダウン症の画家 いかわあきこ」「恥ずかしいのはどっちだ 江嶋修作」

～人権問題と向き合うために～ 中学・一般向け (30分)

～よき出会いのために～ こども向け (23分)

2020年11月完成/ライブラリー価格 各50,000円+税

部落の心を伝えたいシリーズ 番外編 つなぐ×なくす 岡本工介



グローバル (世界とつながる)+ローカル (地域にこだわる)
岡本工介 (41) は、グローバルな生き方で人権問題と向き合う。
アメリカに於ける先住民族や黒人への差別、日本に於ける
部落差別や障がい者差別、それらの過酷な現実を体験する
中で掴み取った独自の具体的実践の数々。

父・茂 (70) が代表理事を務めるtownspace WAKWAKの
事務局長として大阪北部地震後の地元同和地区の再生事業
にも取り組む。同地区には日本各地はもとより海外からも多くの
人々がフィールドワークに訪れるようになった。

「つなぐ」から「なくす」、そして「共に生きる」へ。

確かなビジョンを抱きエネルギーに活動する今を、原体験
である13年前の北米縦断1万キロの映像も交えて描く。

2020年11月完成 (25分) /ライブラリー価格 50,000円+税

障がい者の働き方革命 日本初・大阪発の試み



大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合、通称
エル・チャレンジは1999年設立以来、900人もの障がい者を
就職に結びつけた就労支援組織だ。

一般就労して企業で働くか、福祉施設である作業所で働くか、
二つの選択肢しかなかった20年前に中間的な働き方を発想。
雇用ではなく就労支援に特化した事業運営は日本初の試み
だった。さらに、総合評価一般競争入札制度への挑戦。
それまでの価格だけで競う入札制度に、行政、企業、有識者
たちを巻き込み、公共性という福祉の観点を導入させた。
日本初、大阪発。先見性に満ちた20年の歩みから見えてくる
「障がい者と共に働く未来」とは・・・。

※第1期訓練生たちを20年に亘り長期取材

2020年11月完成 (22分) /ライブラリー価格 50,000円+税

エル・チャレンジ 代表理事 富田一幸

総理が提唱する「自助・共助・公助」を、まず障がい者、次に企業、最後に行政と縦に読んではいけない。

水平いや三角形で読むことだ。大阪ではその三角形を障がい者雇用の方程式にできた。

これからの社会のあり様を考察するに「公」の役割が肝になるが、エル・チャレンジは「公の時代」を先駆けてきたと思う。

